

< 報告事項1 >

事業報告

自 2017年7月 1日

至 2018年6月30日

1. 事業の概況

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構(以下「Vリーグ機構」という)の今(2017/18)シーズンは、日本リーグ創設から51年目を迎え、「未来へつなげ」というキャッチコピーを掲げ、その名のとおり、新たな50年へ歩み出しました。これまでの良き伝統は継承し、新たなものを創り出し、バレーボールの未来を明るく照らしていきたいという想いの象徴として、ファイナル、グランドファイナルと初めて2週に分けて決勝戦を開催する順位決定方法を採用しました。一方で、今シーズンは現行の「Vリーグ」としては最後のシーズンとなりました。2005年の創設以来、「世界に挑戦」「ファン重視」「地域に密着」「常に発展」「成果の拡大」の5つのビジョンを掲げて活動してまいりましたが、時代の構造の変化に対応するため、来(2018/19)シーズンより新たな「V. LEAGUE」をスタートさせます。

以下、第13期事業年度の概況を取り纏め報告します。

2017年9月28日に開催した第12回定時社員総会において、来シーズンからの新リーグ創設を前提に、収益性の高い事業を担うVリーグの事業会社として設立すること、当機構は公益性の高い事業が中心となる為、将来的な公益財団法人への移行を見据えた移行期間として「非営利型一般社団法人」に法人格を変更することが決定いたしました。事業会社は、2017年10月に、「排球堂マーケティング株式会社」としてVリーグ機構に近い中央区新川に設立しました。Vリーグ機構は、非営利型一般社団法人として、法人税申告における収益事業とそれ以外の区分経理などの対応を行いました。

また、第12回定時社員総会では理事・監事の改選はなく、継続して理事13名、監事2名でスタートしましたが、2018年3月に栗生澤理事が勤務先規定により辞任しましたので理事12名、監事2名となりました。

V・プレミアリーグ男子大会は8チームの参加により、2017年10月21日の東京体育館(東京都渋谷区)にて、女子大会は8チームの参加により、2017年10月21日にゼビオアリーナ仙台(宮城県仙台市)にて開幕しました。3回戦総当りによるV・レギュラーラウンドでは、白熱した戦いが続き、上位6チームによるファイナル6への切符は男女とも最終日までもつれ込む混戦となり、その後ファイナルステージ(ファイナル6、ファイナル3、ファイナル)を開催し、ファイナルは男女共2017年3月10日に日本ガイシホール(愛知県名古屋市)で、グランドファイナルは女子が3月17日に、男子が3月18日に東京体育館(東京都渋谷区)で決勝戦を戦いました。女子は久光製薬スプリングスが2シーズンぶり6回目の優勝、男子はパナソニックパンサーズが4シーズンぶり5回目の優勝を飾り閉幕しました。

V・チャレンジリーグIは女子7チーム、男子8チームが3回戦総当りのリーグ戦を行い、女子は岡山シーガルズがV・チャレンジリーグIとしては初優勝、男子は富士通カワサキレッドスピリッツが2年ぶり2回目の優勝を飾りました。V・チャレンジリーグIIは男子で新たに2チームが加わり(ヴォレアス北海道、ヴィアティン三重)、女子は6チーム(社員3チーム、準加盟3チーム)と男子は10チーム(社員5チーム、準加盟5チーム)の3回戦総当りのリーグ戦を行い、女子は群馬銀行グリーンウイングスが、男子はヴォレアス北海道がそれぞれ初優勝しました。

尚、来(2018/19)シーズンより新リーグに移行するため、例年行われていたV・プレミアリーグとV・チャレンジリーグ I の入替戦であるV・チャレンジマッチやV・チャレンジリーグ I とIIの入替戦は実施していません。

昨(2016/17)シーズンからスタートした、スポーツのライブストリーミングサービス契約によるV・プレミアリーグ男女全試合及びV・チャレンジリーグの週 1 大会のライブ中継、ビデオ判定の為にチャレンジシステム、会場の見栄え・盛り上げ向上のためのタラフレックス、カラーコートや大型LEDビジョンの導入拡大等は継続的かつ積極的に実施しました。

昨(2016/17)シーズン50周年記念事業として 15 年ぶりに復活した「Vリーグオールスターゲーム」を2018年3月24日、25日に大田区総合体育館(東京都大田区)にて開催しました。その合間の3月24日夕方、シーズンを通じてお世話になったスポンサーの皆様、各都道府県バレーボール協会の皆様等に感謝の意を伝えると共にオールスター参加選手との交流を深める機会として「2017/18Vリーグ感謝祭」をグランドプリンスホテル新高輪国際館パミール(東京都港区)にて開催しました。

Vリーグ機構の活動成果を経営数値で見ますと、収入面では、昨年度からのDAZNとの契約による放映料・制作協力費等は増加しましたが、排球堂マーケティング設立により一部の事業を移管したことの影響があり、収入総額は865,406千円(対前期12,658千円減…98.6%)となりました。また費用面では、昨年度にあった世界クラブ選手権や50周年イベントの減少に加え、排球堂マーケティングへの事業移管による減少はあったものの、大型LEDビジョン、LED広告の新規導入やタラフレックスの拡大及び翌年度の新リーグへの準備などに費用を投入したことにより、費用総額は851,868千円(対前期26,428千円増…103.2%)となりました。経常利益は14,538千円(対前期35,502千円減)、当期純利益は14,468千円(対前期18,184千円減)となりました。

以下、事業内容を、詳述致します。

2. 事業内容

(1)V・プレミアリーグ

2017/18シーズンは、昨シーズン同様、女子大会・男子大会ともに参加8チームによる3回戦総当たりリーグ戦のレギュラーラウンドとレギュラーラウンド上位6チームによるファイナルステージ(ファイナル6、ファイナル3、ファイナル)の競技形式で、レギュラーラウンド84試合、ファイナルステージ19試合の計103試合、男女合計で206試合を延べ65会場(女子32会場、男子33会場)にて開催しました。

観戦入場者数を見ると、女子大会・男子大会合計で290,764人(対前年60,666人減)、女子大会は132,341人(対前年46,507人減)、男子大会は158,423人(対前年14,159人減)、となりました。1開催日平均では、女子が2,363人(対前年1,011人減)、男子が2,731人(対前年245人減)でした。

(2)V・チャレンジリーグ

2017/18シーズンのV・チャレンジリーグ I は女子大会が参加7チーム、男子大会が参加8チームによる3回戦総当たりリーグ戦とし女子63試合、男子84試合の合計147試合を延べ42会場(女子19会場、男子23会場)にて開催しました。

観戦入場者数を見ると、男女合計で81,966人(対前年15,151人増)、女子大会は49,371人(対前年10,080人増)、男子大会は32,595人(対前年5,071人増)、となりました。1開催日平均では、女子が1,234人(対前年298人増)、男子が741人(対前年53人増)でした。

V・チャレンジリーグ II は、男子の準加盟が2チーム加わり、女子大会が参加6チーム(内準加盟3チ

ーム)による3回戦総当りリーグ戦、男子大会が参加10チーム(内準加盟5チーム)による2回戦総当りリーグ戦として、女子45試合、男子90試合の合計135試合を延べ33会場(女子12会場、男子21会場)にて開催しました。

観戦入場者数を見ると、男女合計で43,313人(対前年2,644人増)、女子大会は18,752人(対前年4,396人減)、男子大会は24,561人(対前年7,040人増)となりました。1開催日平均では、女子が815人(対前年150人減)、男子が614人(対前年141人増)でした。

*テレビ放送に関しては、DAZNにより男女全試合(206試合)がライブ配信され、加えてV・チャレンジリーグ1(男女42試合)、Vリーグオールスターゲーム(男女全4試合)も生中継されました。また、BS(NHK BS-1、BSフジ)、CS(GAORA)、地上波(ローカル)のテレビ放送も昨年同様放送されました。

(3)その他

①V・サマーリーグ女子大会

2017年7月7日～9日、V・プレミアリーグ(8チーム)、V・チャレンジリーグ(13チーム…含む準加盟3)の計21チームが参加して、東西2ヶ所に別れ、東部は、ひたちなか市総合運動公園総合体育館(茨城県ひたちなか市)＜11チーム＞、西部は、串良平和アリーナ(鹿児島県鹿屋市)＜10チーム＞で開催しました。

東部大会の優勝はPFUブルーキャッツ、入場者数は3日間で2,940名でした。西部大会の優勝は東レアローズ、入場者数は3日間で2,863名でした。また、大会期間中に印象に残る活躍をし、かつ将来性の高い選手に贈られる「フレッシュスター賞」にはプレミア/チャレンジI、II各リーグから東西それぞれ1名ずつ計4名が選ばれました。

②2017 アジアクラブ選手権

2017 アジアクラブ選手権大会は、女子は5月25日～31日にオスケメン/カザフスタン(参加8チーム)にて、男子は6月28日～7月6日にナムディン、ニンビン/ベトナム(参加13チーム)にて開催され、女子は久光製薬スプリングス、男子は豊田合成トレフェルサが日本代表として派遣されました。試合は男女共準優勝という結果でした。

(4)2017/18Vリーグオールスターゲーム

昨年50周年記念事業として15年ぶり復活した「Vリーグオールスターゲーム」を大田区総合体育館(東京都大田区)で開催しました。2018年3月24日(土)に女子大会、25日(日)に男子大会を、それぞれ第1試合がV・チャレンジリーグI・II、第2試合がV・プレミアリーグのオールスターゲームとして行いました。V・プレミアリーグ、V・チャレンジリーグ共に、オールスターファン投票によって選出された14名+Vリーグ機構推薦選手14名の計28名の選手を2チームに編成しました。2日間の入場者数は6,186名で、大いに盛り上がりました。このVリーグオールスターゲームは今後も毎年継続開催予定です。

また、その中で、大田区内の中学校2校を対象にオールスターゲーム出場のV・プレミアリーグ男子選手10名によるバレーボール教室を実施しました。

(5)2017/18Vリーグ感謝祭

Vリーグオールスターゲーム開催中の3月24日夕方、シーズンを通じてお世話になったスポンサーの

皆様、各都道府県バレーボール協会の皆様等に感謝の意を伝えると共にオールスター参加選手との交流を深める機会として「2017/18Vリーグ感謝祭」をグランドプリンスホテル新高輪国際館パミール(東京都港区)にて開催しました。出席者は 2017/18Vリーグ協賛社の皆様、都道府県バレーボール協会理事長、オールスター参加男女選手等約 200 名で大いに盛り上がりました。

(6)大会トピックス

今(2017/18)シーズンの大会におけるトピックスとして、以下の紹介をします。

□大型LEDビジョン(新規導入)

会場で観戦のお客様に試合映像、リプレイをご覧いただけるように、また、チャレンジシステムの判定映像を見ていただけるように、今シーズンよりV・プレミアリーグ全会場にて大型LEDビジョンを設置しました。会場でも判定映像を確認したいとの声を反映したもので、観客、チームにとっても公平な判定につながりました。また、大型LEDビジョンを利用し、試合前のスターティングメンバーの名前と顔写真をビジョンに表示することで、観客により分かりやすく観戦いただけるようになりました。

□チャレンジシステムのレベルアップ

昨(2016/17)シーズンから導入したチャレンジシステム(ビデオ判定システム)は、今(2017/18)シーズンは、「ボールのイン/アウト」、「ブロッカーのボールコンタクト」に加え、新たに、「ボールまたは選手のネット上部のアンテナタッチ」、「サーバーのラインクロス」の計4判定に適用できるようにしました。

□タラフレックスコート

今(2017/18)シーズンはV・プレミアリーグ会場(特別な一部を除く)にてタラフレックスコートを使用しました。これにより、会場の見栄えや装飾が綺麗になり、国内最高峰リーグのコートとして品格が上がりました。また、アリーナ面にシートを敷くことで安全対策を強化し、選手の怪我抑止にもつながりました。

(7)広報/プロモーション活動

①記者会見

今(2017/18)シーズンの開幕記者会見を 10 月 11 日に男女一緒にサンシャインシティ噴水広場(東京都豊島区)にて行い、10 月 21 日の開幕に合わせ、女子はゼビオアリーナ仙台(宮城県仙台市)、男子は東京体育館(東京都渋谷区)とそれぞれの試合会場にて開幕前日記者会見を行い、V・プレミアリーグのレギュラーラウンドがスタートしました。

また、12 月 25 日には来(2018/19)シーズンからスタートする新リーグの名称・ロゴデザイン発表記者会見を行いました。

2 月にはV・プレミアリーグはファイナルステージに入り、2 月 9 日にはファイナル6前日記者会見を女子は島津アリーナ京都(京都府京都市)、男子は大田区総合体育館(東京都大田区)にて行い、3 月 2 日にはファイナル3前日記者会見を男女一緒に熊本県立総合体育館(熊本県熊本市)で行いました。

ファイナルは、今シーズンは、ファイナル、グランドファイナルと決勝戦を 2 週に分けたこともあり、3 月 9 日にはファイナル名古屋大会前日記者会見を日本ガイシホール(愛知県名古屋市)で、3 月 16

日にはグランドファイナル前日記者会見を東京体育館(東京都渋谷区)で男女一緒に行いました。

3月24日のVリーグオールスターゲーム開催中に来(2018/19)シーズンからの新リーグ編成発表会見を行いました。

②2017/18Vリーグオフィシャルサポーター

昨年に引き続きVリーグの魅力をより多くの人に伝えるために、上野優華さんが「2017/18Vリーグオフィシャルサポーター」として活動しました。今シーズンは、上野さんの歌う『光』がオフィシャルソングとして全会場でBGMとして流れたり、オールスターゲームではレポーターや、表彰式のプレゼンターを務めたりと、様々な活動を通じてVリーグを盛り上げていただきました。

③Vリーグコラボレーション

□Vリーグ×DAZN

昨(2016/17)シーズンよりV・プレミアリーグ全試合LIVE中継配信などを行っていただいているオフィシャルブロードキャスティングパートナー「DAZN(ダゾーン)」は、～見たことのないVリーグ始まる。“ディスカバーVリーグ”～を今(2017/18)シーズンのテーマに決め、V・プレミアリーグ全会場で4～5台のカメラを稼働させ高い中継クオリティでファンの期待に応えました。また、テーマに合わせて、チーム・選手の普段見られない素顔や新たな一面をファンの皆様に楽しんでいただくコンテンツの提供やメディアに取り上げられる機会を増やす為にDAZN中継現場のメディアツアーの開催など積極的な情報発信を行いました。

□Vリーグ×GAORA

CS放送の「GAORA」との取り組みでV・プレミアリーグ男女のハイライト番組「VっとVリーグ」の放送を開始し、レギュラーラウンドはもちろん、ファイナルまでの注目カードをハイライトでお届けしました。放送は、11月～3月の6日間(12回)＜男女各1回/月＞実施

□Vリーグ×少女ファイト

人気バレーボール漫画「少女ファイト」とのコラボレーションによる幅広い世代の読者に向け、普及促進を図りました。「少女ファイト」は、講談社/青年漫画誌イブニングに2006年2号より連載中の高校女子バレーボールを扱った作品。主なトピックスとして、イブニング3月13日発売号にオールスターゲーム特集記事の掲載や、V・プレミアリーグ女子オールスターゲームで活躍した選手に「少女ファイト賞」として漫画に登場する権利の贈呈(漫画掲載は新リーグの始まる今秋を予定)がありました。

④プロモーション活動

□「公式ホームページ」をリニューアル

ファンの皆様により見やすく、より快適にご利用いただけるWEBサイトを目指し、デザインを一新しました。膨大な情報を検索しやすいように検索機能を充実させ、また画像を大きく用いてVリーグの魅力や情報を発信しています。

□「コーポレートサイト」をオープン

新リーグ開幕に向けて、情報発信の増加、多様化が予想され、各ステークホルダーへより適した情報を発信する為、「コーポレートサイト」を2017年8月31日に開設しました。本サイトは、当機構が目指すバレーボールリーグの姿、組織情報、財務情報、CSR情報や採用情報などを発信していくWEBサイトです。今後は支援企業や自治体向けにVリーグの活動内容を発信させていただくなど随時コンテンツを追加していく予定です。

□「バレーボールステーションViVA」をオープン

今(2017/18)シーズンの開幕に合わせてVリーグオフィシャルグッズオンラインショップをリニューアルし、新たに「バレーボールステーションViVA」をオープンしました。従来のVリーグオフィシャルグッズに加えて、オンラインショップ限定オリジナルグッズ(スマートフォンカバー、マグカップ)や、人気キャラクター「ハローキティ」(株式会社サンリオ)とコラボレーションしたオリジナルグッズまで、多彩なラインナップを展開。また、バレーボール観戦初心者の女性をターゲットにしたVリーグの楽しみ方やグッズを使った応援スタイルを紹介する特集ページ「Vガール観戦スタイルガイド」等の企画により新たなバレーボール応援スタイルを提案しています。

□公式SNSについて

公式ホームページでは紹介しきれない情報や一般報道等では伝えられない選手関連の情報などを紹介する為、Vリーグ公式SNS(twitter、Facebook、Instagram)を通じて様々な最新情報の提供に努めています。写真や動画を使い季節感のある投稿をすることで、特に若者や女性のお客様にアリーナ外でも楽しめるコンテンツを発信していきます。

□Vリーグ公式チケット販売サイトで「LINEチケット」を導入

今(2017/18)シーズンよりVリーグ公式チケット販売サイト「Vチケ」で購入された方が、スマホアプリのLINEでチケットを受け取ることができる「スマホチケットLINEで発券サービス」を公式サービスとして運用を開始しました。スマホだけで入場することができる手軽さと、電子チケットの特性を活かした様々なサービスをお客様に提供できるようになりました。2017/18Vリーグオールスターゲームのファン投票受付もこのLINEチケットの機能を活用して行い、1,164,627票も集めることができました。

(8) 社会貢献活動

① 日本骨髄バンク支援活動

Vリーグ機構では、社会貢献活動の一環として、2006/07 シーズンより日本骨髄バンクへの支援活動を行ってきました。

2017/18 シーズンも全国各地のV・プレミアリーグ男女大会、V・チャレンジリーグ I、II 男女大会の試合会場でステッカーなどを配布しました。V・プレミアリーグではコートエンドにバナーを設置したほか、今シーズンより導入された大型LEDビジョンにてドナー登録を呼びかける映像を流し、V・チャレンジリーグでは幟(のぼり)や横断幕を設置し、骨髄バンクの普及啓発活動を行いました。

また、2018年3月17、18日の「V・プレミアリーグファイナル東京大会」の会場内では、Vリーグ現役選手による募金活動を行い、集まった募金総額111,945円はすべて公益財団法人日本骨髄バンクに寄付させていただきました。

(9) 普及活動

①V・明日夢(みらい)プロジェクト

「V・明日夢(みらい)プロジェクト」は、2012年11月に東京都でスタートし、全国で順次開催してきましたが、これまでの5年間で242回のバレーボール教室を行い、2万人を超える子供たちにバレーボールの楽しさを伝えています。

2017年度は、全国35会場でバレーボール教室を行い、Vリーグ期間中は、日清製粉グループとのタイアップ企画を全国15会場で行いました。更にゼビオグループとのタイアップ企画を17会場で開催し、合計67会場/4,703名の皆さんと出会うことが出来ました。また東京都日野市との定期的な交流など様々な普及活動を実施しました。

□「V・明日夢プロジェクト」バレーボール教室

全国35会場で行われたバレーボール教室は、ビジネスブレイン太田昭和協賛、セイカスポーツクラブや各市の主催で行われ、小中高生など延べ3,629名が、講師は延べ101名が参加しました。

□日清製粉グループ presents V・明日夢プロジェクト

V・プレミアリーグの協賛社である日清製粉グループのご協力の下、2017/18V・プレミアリーグの開催に合わせて開催地の子供たちを対象としたバレーボール教室を全国15会場で開催しました。小中学生延べ815名、講師延べ30名が参加しました。

□スーパースポーツゼビオ presents V・明日夢プロジェクト

ゼビオグループのご支援のもと、ゼビオ店舗内におけるスポーツ体験施設「スポーツパーク」にて実施する『バレーボール体験レッスン』を13回、全国の店舗近隣の体育館で行う『バレーボールクリニック』を4回の計17回実施いたしました。小学生延べ259名、講師延べ17名が参加しました。

□日野第二中学校・三沢中学校女子バレーボール部 with V・明日夢プロジェクト

東京都日野市からの依頼を受け、V・明日夢プロジェクトでは2017年7月～2018年2月までの期間、日野第二中学校への部活動指導16回行いました。2018年4月からは三沢中学校への部活動指導を行っており、4月～6月で7回行いました。

②2017Vリーグジュニア選手権大会

Vリーグ機構では、バレーボール人口減少への対策として、また未来のVリーグ選手を数多く輩出するため、Vリーグチームのジュニアチームの創設ならびに育成促進に取り組み、その一環として、2015年度よりVリーグジュニア選手権大会を開催しております。第3回大会となった今年度は、試合数を増やし、また開催地の地元チームと優勝チームとのエキシビジョンマッチを開催するなど、前回大会よりも更に充実した大会となりました。

□2017Vリーグジュニア選手権大会

2017年8月26日、27日に、岐阜メモリアルセンター／ふれ愛ドーム(岐阜県岐阜市)にてVリーグ男子チームのジュニア12チームで開催しました。

(10) 研修会・委員会活動

①プレーヤーズミーティング

Vリーグ各チームから39名(39チーム)が参加し、選手とソーシャルメディアについての講演やJURYとの意見交換会、Vリーグを盛り上げる為のグループディスカッション、メディアトレーニングの講義などを行いました。

開催日 2017年8月5日(土)13:30～6日(日)15:00
会場 サントリー研修センター夢たまご(神奈川県川崎市)
出席対象者 Vリーグ各チーム代表選手

②2017/18Vリーグ開催地・チーム合同会議、実行支援部会議

開催地・チーム合同会議はVリーグの大会に際して、そのシーズンの大会運営に関する最終確認を行う会議として毎年実施しています。今年度は開催地・チーム合同会議に引続き、実行支援部会議を開催しました。

<開催地・チーム合同会議>

開催日 2017年7月29日(土)12:30～17:00
会場 TOC五反田メッセ(東京都品川区)
出席対象者 開催地責任者、チーム関係者、Vリーグ機構関係者、実行支援部 等

<実行支援部会議>

開催日 2017年7月29日(土)17:30～18:30
会場 TOC五反田メッセ(東京都品川区)
出席対象者 実行支援部

③JURY会議、レフェリークリニック

2017/18 シーズンの運用の重要事項を確認するJURY会議を開催したほか、2日目にはVリーグチームの監督と JURY、Vリーグ特別審判員が一堂に会し、2017/18 シーズンで適用するルールの確認等を行う、レフェリークリニックを開催しました。

<JURY会議>

開催日 2016年8月5日(土)9:00～6日(日)17:00
会場 サントリー研修センター夢たまご(神奈川県川崎市)
出席対象者 JURY

<レフェリークリニック>

開催日 2016年8月6日(日)12:30～17:00
会場 サントリー研修センター夢たまご(神奈川県川崎市)
出席対象者 JURY、Vリーグ特別審判員、Vリーグ各チーム監督

④各種委員会活動

Vリーグ機構の委員会は、理事会・運営会議・代表幹事会等のVリーグ機構主要会議により発議発案された課題や問題など、主にVリーグ機構運営上の重要問題に関して会長が諮問するテーマについて、理事・チーム代表・事務局・外部有識者などが委員となり、研究内容・方向性・一定の結論などを運営会議ならびに代表幹事会で報告・提案や理事会・会長に答申する役割を担っています。

主要な小委員会として、「コンプライアンス委員会」、「Vリーグイベント委員会」、「技術情報委員会」、などがあります。今年度は、2018年秋より開幕する新リーグに向けた「新リーグ準備委員会」、「新リーグライセンス審査委員会」、「新リーグ規約・運営マニュアル委員会」、「新リーグ広報・マーケティング委員会」、「新リーグ審判専門委員会」の活動が活発に行われました。

(11)助成金

独立行政法人日本スポーツ振興センターより、我が国における国際競技力の向上を期すための国

の助成金制度「競技強化支援事業助成金(国庫基金)」(2003年度～)および「スポーツ振興くじ助成金」(2011年度～)の交付を受けています。今年度については、両助成金で 50,478 千円の交付を受け、マネジメント機能強化、研修会やV・プレミアリーグ活性化、V・チャレンジリーグの強化育成・活性化及びVリーグジュニア選手権の開催に活用しました。今年度までの交付累計受入額は 445.6百万円に達しています。

今後とも制度の主旨に沿った有効活用を心がけ、改善改革に努め、組織基盤の強化を図り、バレーボール界の普及・発展に邁進してまいります。

(12)協賛金

今シーズンもV・プレミアリーグ及びVリーグオールスターゲームへの多くの企業より協賛を頂くことができました。

協賛いただきました各企業の皆様と、お世話になりました株式会社電通に厚く御礼申し上げます。

(12)排球堂マーケティング株式会社設立

バレーボール新リーグの開幕を2018年秋にひかえ、バレーボールの価値を最大化し、スポンサーセールス、グローバル戦略、大会運営、チケット팅、マーチャンダイジング、プロパティ管理、競技普及等の側面からスポーツビジネスの提案と運営を行う目的で、当機構の100%子会社として「排球堂マーケティング株式会社(英名:V. Marketing Japan Inc)(出資金1,998万円…内資本金999万円、資本準備金999万円)を2017年10月10日に設立いたしました。代表取締役社長には橋本新吾氏が就任し、本店所在地は東京都中央区新川2-3-11共立ビル2階です。

尚、2017年12月25日、株式会社セレスポより増資引受500万円(内資本金250万円、資本準備金250万円)が行われ、現在の資本金は1,249万円で、当機構の出資比率80%となっています。

2018/19シーズンから新リーグ「V. LEAGUE」をスタートさせます。新リーグではチームが主役となり、ファンを楽しませ会場を盛り上げる「ファンファースト」なリーグを目指します。チームの独自性を出したホームゲームや、ホームタウンである地域との密接な連携を通じてファンを惹きつけ、リーグの価値を高めていきます。それにより世界につながる「世界一のバレーボールリーグ」をつくること、バレーボールを「日本のトップアリーナスポーツ」にすることが目標です。

Vリーグ機構としましては、チームとの更なる連携強化を図ると共に、公益財団法人日本バレーボール協会をはじめ、都道府県バレーボール協会他関係諸団体との協力関係にも尚一層の緊密化を図り、社員各位の期待に応えてまいり所存です。

社員の皆様におかれましては、引き続き格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

3. 社員一覧

*社員名、チーム名は2018年6月30日現在（順不同）

社員名	チーム名	区分	基金の口数	基金の額（円）
公益財団法人日本バレーボール協会			12	6,000,000
株式会社ワーク	岡山シーガルズ	女子	1	500,000
サントリーホールディングス株式会社	サントリーサンバーズ	男子	1	500,000
株式会社デンソー	デンソーエアリービーズ	女子	1	500,000
東レ株式会社	東レアローズ	男子	1	500,000
	東レアローズ	女子	1	500,000
豊田合成株式会社	豊田合成トレフェルサ	男子	1	500,000
日本たばこ産業株式会社	JTサンダーズ	男子	1	500,000
	JTマーヴェラス	女子	1	500,000
日本電気株式会社	NECレッドロケッツ	女子	1	500,000
久光製薬株式会社	久光製薬スプリングス	女子	1	500,000
日立オートモティブシステムズ株式会社	日立リヴァーレ	女子	1	500,000
株式会社ブレイザーズスポーツクラブ	堺ブレイザーズ	男子	1	500,000
パナソニック株式会社	パナソニックパンサーズ	男子	1	500,000
一般社団法人上尾中央医科グループ協議会	埼玉上尾メディックス	女子	1	500,000
株式会社大野石油店	大野石油広島オイラーズ	女子	1	500,000
近畿クラブ	近畿クラブスフィダ	男子	1	500,000
警視庁特科車両隊	警視庁フォートファイターズ	男子	1	500,000
株式会社ジェイテクト	ジェイテクトSTINGS	男子	1	500,000
医療法人青雲白鷺会三好内科・循環器科医院	大分三好ヴァイセアドラー	男子	1	500,000
大同特殊鋼株式会社	大同特殊鋼レッドスター	男子	1	500,000
一般社団法人つくばユナイテッドサンガイア	つくばユナイテッドSun GAIA	男子	1	500,000
医療法人社団天宣会	柏エンゼルクロス	女子	1	500,000
東京フットボールクラブ株式会社	FC東京	男子	1	500,000
トヨタ自動車株式会社	トヨタ自動車サンホークス	男子	1	500,000
	トヨタ自動車ヴァルキューレ	女子	1	500,000
トヨタ車体株式会社	トヨタ車体クインシーズ	女子	1	500,000
東京ヴェルディ1969フットボールクラブ株式会社	東京ヴェルディ	男子	1	500,000
富士通株式会社	富士通カワサキレッドスピリッツ	男子	1	500,000
一般社団法人KUROBEアクアフェアリーズ	KUROBEアクアフェアリーズ	女子	1	500,000
株式会社PFU	PFUブルーキャッツ	女子	1	500,000
NPO法人阪神バレーボールコミュニティ	兵庫デルフィーノ	男子	1	500,000
株式会社きんでん	きんでんトリニティーブリッツ	男子	1	500,000
東京トヨペット株式会社	東京トヨペットグリーンスパークル	男子	1	500,000
株式会社熊本サービスセンター	フォレストリーヴズ熊本	女子	1	500,000
グリーン・サポート・システムズ株式会社	GSS東京サンビームズ	女子	1	500,000
ぎふ農業協同組合	JAぎふリオーレナ	女子	1	500,000
NPO法人アザレア・バレーボール振興会	埼玉アザレア	男子	1	500,000
一般社団法人VC長野クリエイトスポーツ	VC長野トライデンツ	男子	1	500,000
一般社団法人ブレス浜松	ブレス浜松	女子	1	500,000
合計	(37団体) (39チーム)		51	25,500,000

4. 役員一覧

2018年6月30日現在

代表理事 (会長)	しまおか けんじ 嶋岡 健治	1949年(昭和24年)5月9日生 第10期理事(副会長) 第11期～12期代表理事会長 公益財団法人日本バレーボール協会 会長
理事 (副会長)	みよし とおる 三好 徹	1947年(昭和22年)4月15日生 第2期～第12期理事 三好総合法律事務所 所長
理事	はやし たかひこ 林 孝彦	1959年(昭和34年)8月1日生 第6期～第12期理事 日本電気株式会社 総務部シニアマネージャー
理事	かやしま あきら 萱嶋 章	1957年(昭和32年)10月4日生 第8期～第12期理事 久光製薬(株)上席執行役員 鳥栖工場厚生部 部長 久光製薬スプリングス 部長
理事	まつおか ひろたか 松岡 宏高	1970年(昭和45年)1月22日生 第10期～第12期理事 早稲田大学 教授
理事	おき たかお 沖 隆夫	1978年(昭和53年)5月1日生 第12期理事 一般社団法人日本バレーボールリーグ機構 事務局長
理事	ゼッターランド、 ヨーコ、カリン	1969年(昭和44年)3月24日生 第12期理事 有限会社オフィスブロンズ 取締役社長 (公財)日本スポーツ協会 常務理事 2020東京オリンピック・パラリンピック組織委員会 理事
理事	ながた まさと 永田 将人	1958年(昭和33年)10月29日生 第12期理事 (株)デンソー西尾・善明製作所長 デンソーエアリービーズ 部長
理事	にしかわ ともゆき 西川 友之	1947年(昭和22年)9月7日生 第12期理事 富山大学 名誉教授 KUROBEアクアフェアリーズ 副部長 (公財)日本バレーボール協会 評議員
理事	はやの ようじ 早野 容司	1960年(昭和35年)3月3日生 第6期～第11期監事 第12期理事 (株)ジェイテクト営業本部 東日本支社 支社長 ジェイテクトSTINGS GM
理事	やまもと みちひこ 山本 道彦	1966年(昭和41年)9月1日生 第12期理事 富士通コネクテッドテクノロジーズ(株) 総務人事統括部長代理 兼 人事部長 富士通カワサキレッドスピリッツ 副部長 兼 総監督
理事	みずたに たかよし 水谷 孝義	1949年(昭和24年)3月12日生 第12期理事 愛知県バレーボール協会 副会長
監事	やまのかわこうじ 山ノ川 孝二	1953年(昭和28年)1月7日生 第8期～第9期理事 第11期～第12期監事 クラリオン(株) 取締役 日立リヴァーレ 顧問
監事	やまの はるお 山野 春雄	1964年(昭和39年)4月5日生 第12期監事 東レ(株)三島工場 事務部長 東レアローズ 部長